

就学前施設における気になる子どもの行動への 保育者の言語的コミュニケーションの特徴

帝京大学大学院 医療技術学研究科 看護学専攻
修士課程 山本 有

指導教員 石舘 美弥子

目次

- I. 研究背景
- II. 研究方法
- III. 分析方法
- IV. 結果
- V. 考察
- VI. 文献

用語の操作的定義

「気になる子ども」

調査時点では何らかの障害があると診断されていないが、保育者にとって行動や反応、保育が難しいと考えられている個別の配慮が必要な子どもを指す。

「保育者」

就学前施設の管理職以外の保育園保育士および幼稚園教諭を指す。

I . 研究背景

- ・保育所、幼稚園など(以下、就学前施設とする)において「気になる子ども」の存在の増加が報告されている(平澤 他, 2005; 津田・木村, 2014)。
- ・「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」では、学習面または行動面で著しい困難を示す児童生徒が6.5%いると公表されている(文部科学省, 2015)。

障がいの判定を受けていないが、支援が必要な子ども

支援が必要な子どもの有無	割合	
	2008年	2016年
いる(判断が難しい等も含む)	60.7%	79.4%
いない(障がい者手帳あり)	42.0%	20.6%

⇒これらの資料からも障害が診断されていない支援の必要な子ども、いわゆる「気になる子ども」が増加していることが分かる。

- 先行研究より「気になる子ども」の保育に困難感を抱えている保育者は多く存在する(池田,他 2007;古市,2009;井上・河内山,2012;木曾 2014;津田,木村 2014;半澤他,2005)。
- 主な困難感として「個性なのか、障害なのか分からない」、「子どもの行動が理解できない」などが挙げられている。(池田 他,2007;尾崎・吉川,2009)

先行研究における「気になる子ども」の行動特性

落ち着きのなさ

- ・ 注意力散漫
- ・ 集団行動がとれない
- ・ じっと椅子に座ってられない

対人トラブル

- ・ 手が出る(暴力)
- ・ バカヤローなどの言葉を使う(暴言)
- ・ 順番を守れない

対話の不成立

- ・ 目が合わない
- ・ 指示に従えない
- ・ ことばの内容が理解できていないようにみえる

⇒コミュニケーションに関する問題が挙げられている。

- 保育者は「気になる子ども」に対して「どのようなことばかけをすればよいのかわからない」、「自分の声かけがその子の負担に感じていないか」という懸念がある（久保山,他 2009;平野,他 2012;尾崎・吉川,2009）。

⇒実際にどのようなことばかけがなされているか研究しているものは少ない。

- 以上の背景から、本研究の目的として「気になる子ども」に対する保育者の言語的コミュニケーションを明らかにすることを目的とする。

Ⅱ．研究方法

1. 調査方法

郵送法による自記式質問紙調査であった。

2. 研究対象・期間

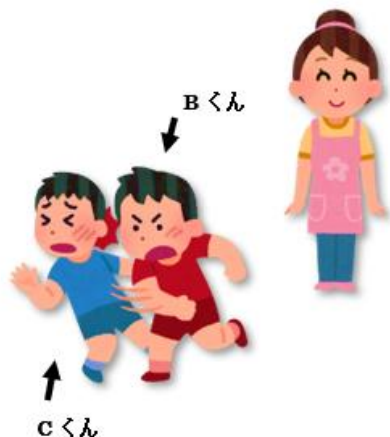
管轄の行政担当課、公立・私立幼稚園と保育園、全国認定こども園協会に連絡し、同意の得られた200施設の管理職以外の0～5歳児クラス担当の1,000名の保育者であった。調査期間は2020年6月から8月末の3か月間であった。

以下のイラストを見て、回答者がどのようなことばかけをするか記載を求めた。



集団保育場面：

集団保育から離脱してしまったAちゃんに対して戻ってきてもらうためにかけることばかけを記載してもらった。



他児との関係の場面：

遊びの最中に突然、BくんがCくんに対して手を挙げてしまった場面を見かけた時に、Bくんにかけることばかけを記載してもらった。

Ⅲ. 分析方法

1. ことばの解析

1) 単純集計と単語頻度分析

単純集計では、各場面のテキストの行数、述べ単語数などの基本情報を集計した。単語頻度分析では、どのような単語が何回出現するか集計した。品詞は名詞・形容詞・形容動詞・動詞・副詞に限定し、上位20件を抽出した。

2) 話題分析

各場面においてことば同士の関連を可視化するために
行った。「ことばネットワーク」を行い、テキスト全体から共
起関係にあることばをまとめて、大まかな話題ごとに分け
た。行単位で出現回数が2回以上の出現していることば
を抽出した。

IV. 結果

1. テキスト情報

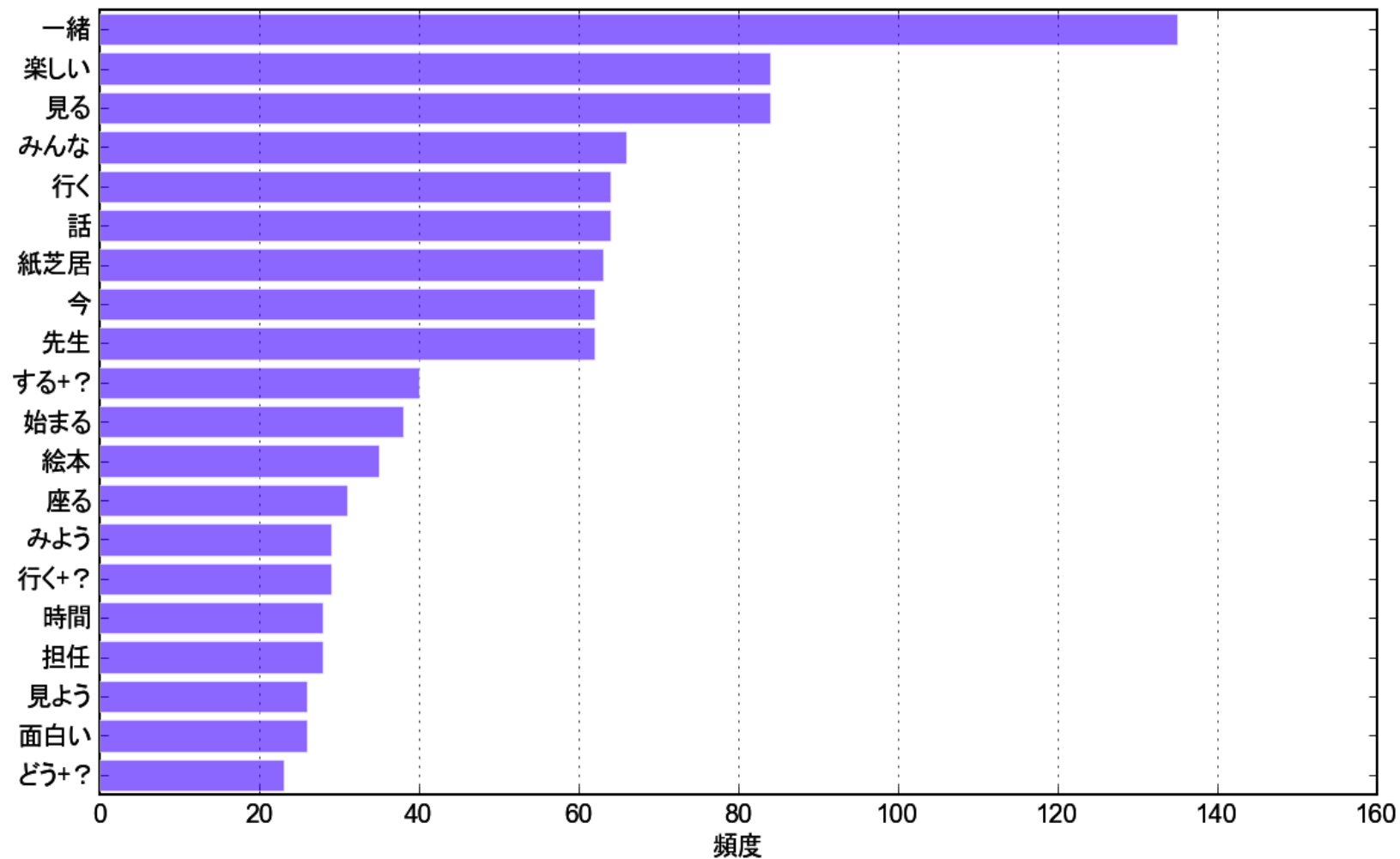
項目	場面1	場面2
総行数	287	289
平均文長(文字数)	42.2	43.4
総文章数	882	976
平均文章長(文字数)	14.2	13.2
述べ単語数	2,769	2,580
単語種別数	398	276

2. 品詞別出現回数

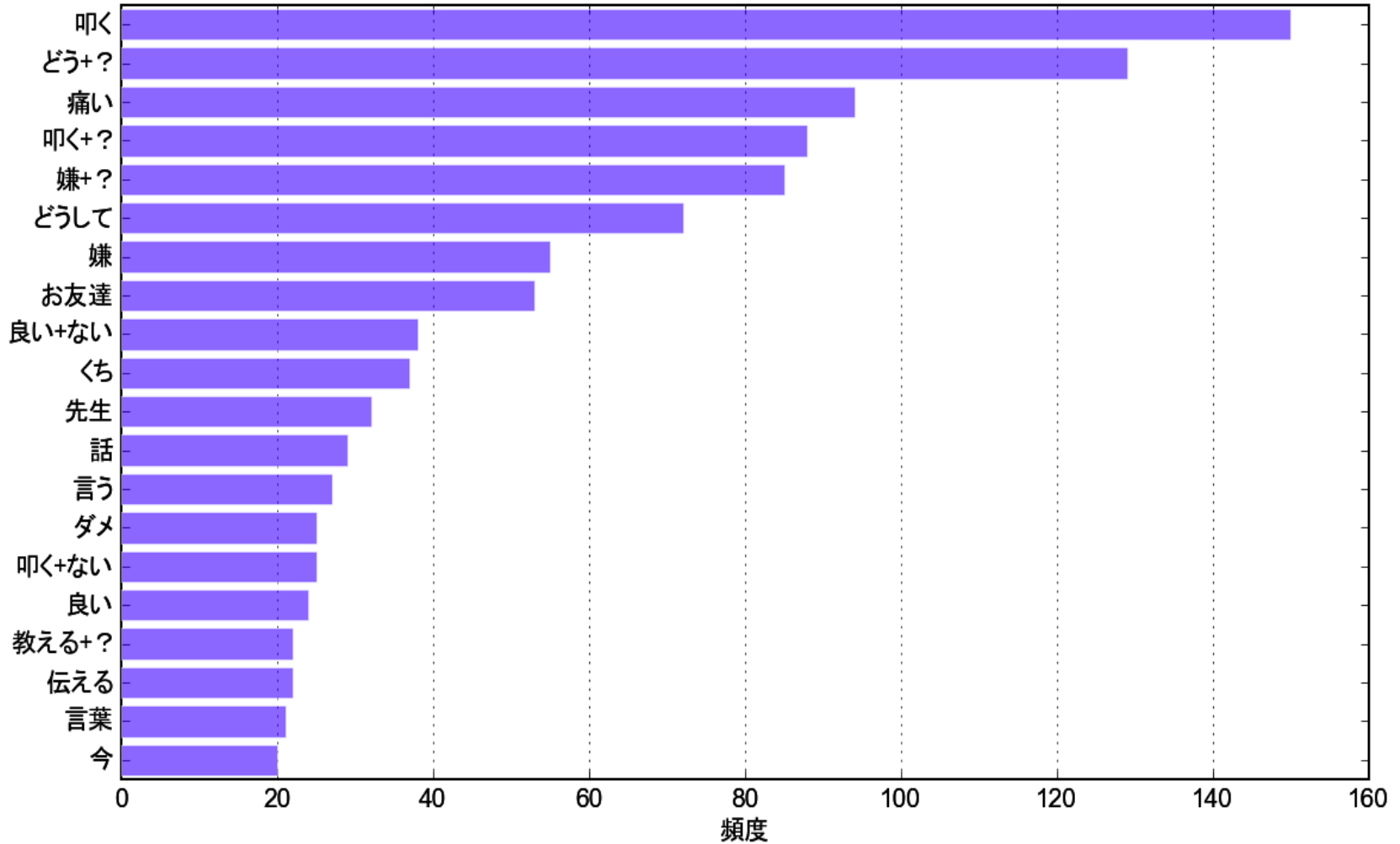
品詞	場面1	場面2
名詞	1,185	812
動詞	805	628
形容詞	160	211
副詞	83	298

3. 単語頻度分析

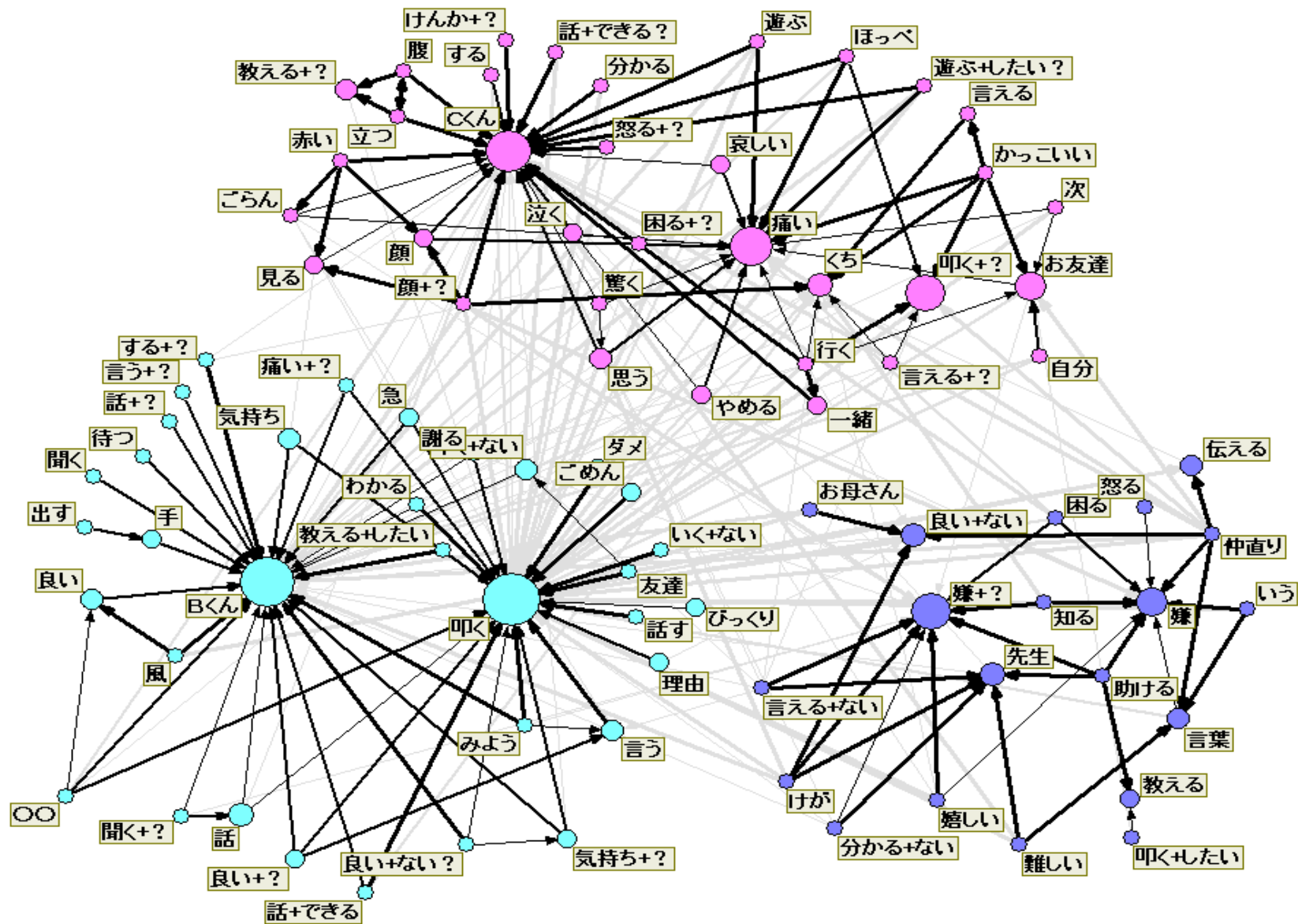
(場面1)



(場面2)



(場面2)



V. 考 察

(場面1)

- 「一緒」「楽しい」ということばが多く抽出された。
「一緒」に関する原文をみると「先生と一緒に見にいこうか」など提案することばかけがみられ、子どもに単独で戻るよう指示する関わりではなく、保育者と共に行動する対応が特徴的であった。
- 「楽しい」に関する原文をみると、「あっちで楽しそうなことやってるよ」など、子どもの意識を別方向へ逸らす、注意転換の働きかけをしていることが示された。

(場面2)

- ことばネットワークの結果では、「嫌+?」、「嫌」のクラスタにおいて、「助ける」、「難しい」が共起していた。原文をみると「嫌なことあったら言葉で(中略)難しかったら先生も手伝うよ」、「嫌なことをされた時は、先生が助けてあげるから(以下略)」が抽出された。
- 「気になる子ども」のトラブル場面において、保育者の対応は、トラブルの原因を確認するだけでなく、子どもの味方として支援することばかりに特徴があった。子どもが自分自身の気持ちをうまくことばで表現できない時に、子どもの思いを汲み取りながら、かかわっていく保育者の実際が示された。

- テキストでは、「どう+?」「どうしたの?」といった行動の原因や子どもの状態を質問することばかりが多かった。ことばネットワークにおける「Bくん」のクラスタには「気持ち」ということばが共起しており、原文では「Bくんも〇〇な気持ちだったんだね」が抽出された。
- 定型発達児同士のトラブル場面における保育者の対応には、質問することに加えて、子どもの気持ちを受け止め、寄り添うことばがあると述べられている(越中・目久田, 2017)。今回の調査でも類似のことばかけがあることが明らかとなった。

VI. 文献

- 郷間英世,圓尾奈津美,宮地友美,他.(2008):幼稚園・保育園における「気になる子」に対する保育上の困難さについての調査研究. 京都大学教育紀要, 81-89
- 半澤嘉博,渡辺健治,田中譲,他.(2012):個別の配慮が必要な園児への対応の現状と課題について—東京都の公立保育所における実態調査から—. 人間文化研究所紀要.6,39-51.
- 平野華織,水野友有,別府悦子,他(2012):幼稚園・保育所における「気になる」子どもとその保護者への対応の実態—クラス担任を対象とした調査をもとに—(第2報). 中部学院大学・中部学院短期大学部研究紀要, 13, 145-153.
- 平澤紀子,藤原義博,山根正夫(2005):保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する研究調査—障害群から見た該当児の実態と保育者の対応および受けている支援から—. 発達障害研究, 26(4), 256-267.
- 古市真知子(2009):保育者からみた特別な支援が必要な子どもの行動特徴—明らかな知的障害のない子どもについて—. 中部大学現代境域学部紀要, 157-164.
- 池田友美,郷間英世,川崎友絵,他.(2007):保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題に関する調査研究. 小児保健研究.6(6), 815-820.
- 井上和博,河内山奈央子(2012):発達障害児に関わる保育士・幼稚園教諭の「不安や困りごと」:作業療法士の視点から. 鹿児島大学医学部保健学科紀要, 22(1), 31-38.
- 木曾陽子(2014):保育における発達障がいの傾向がある子どもとその保護者への支援の実態. 大阪府立大学社会問題研究, 63, 69-82.

- 越中康治, 目久田純一(2017): 子ども同士のトラブルに対する保育者と小学校教諭の言葉かけ—テキストマイニングの手法を用いた教育学部生との比較検討—. 幼年教育年報, 39, 33-41.
- 久保山茂樹, 齊藤由美子, 西牧謙吾, 他(2009): 「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査—幼稚園・保育所への機関支援で踏まえるべき視点の提言—. 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 36, 55-76.
- 文部科学省(2012): 公立小中学校の通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について.
- 尾崎啓子, 吉川はる奈(2009): 私立幼稚園における「気になる子ども」の保育の困難さに関する調査研究—自由記述の分析を中心として—. 埼玉大学紀要 教育学部, 58(2), 197-204.
- 友定啓子, 入江礼子, 白石敏行, 他(2009): 子ども同士のトラブルに保育者はどう関わっているか—「人間関係」の指導に関する研究. 科学研究費補助金研究成果報告書.
- 津田朗子, 木村留美子(2014): 保育所における発達障害の早期発見・早期介入を阻害する要因の検討—「気になる子ども」に対する保育士の認識と支援体制から—. 金沢大学つるま保健学会誌, 38(2), 25-33.
- 全国保育協議会(2008): 全国の保育所実態調査報告書.
- 全国保育協議会(2017): 会員の実態調査報告書2016.